

指導者養成事業『学社共同参画セミナーⅡ』募集要項

～妙高の大雪原の中で待っています！！～

- 1 期 日 平成29年2月17日（金）～19日（日）2泊3日
- 2 会 場 国立妙高青少年自然の家
- 3 講 師 国立妙高青少年自然の家 所長 伊野 亘
環境教育事務所 Life time 代表 小菅 江美
- 4 授業概要 体験を通して、青少年教育施設の役割と体験学習法を理解し、実践として使える企画力・指導力を身につける。

- 5 参加申込 **2月4日（土）締切り** Web フォームもしくはメールで申してください。

申込メールアドレス： myoko-sen@niye.go.jp

件名を【学社申込】と記載し、住所、氏名、年齢、所属（学年）、電話番号、

メールアドレス、アレルギー、レンタルの有無を送って下さい。



***教材費のキャンセルはできません。食事代のキャンセルは3日前までの連絡で可能です。**

Web フォーム

- 6 日程及び内容

アクセス用 QR コード

主な活動内容 ○スノーシューハイキング ○雪中泊 ○自然体験マネージメント研修

時間	2月17日（金）	時間	2月18日（土）	時間	2月19日（日）
9:45	会場到着・受付	6:30	起床	6:30	起床
10:00	1 オリエンテーション	7:15	朝食		朝食
	2 学ぶ時間①	9:00	移動（ハートランド妙高へ）	7:30	11 体験する時間⑥
	・学社連携について		7 体験する時間②		・雪洞取り壊し、片付け
	3 学ぶ時間②		・雪の住まいと広場を作ろう	8:30	移動（自然の家へ）
	・コンパスワーク		※雪中泊体験、イグルー	9:00	12 活動のまとめ②
	・グループ編成		作り体験	9:30	13 学ぶ時間④
	・スノーシューハイクの計			12:30	・マネージメント企画
12:00	昼食（食堂）	12:00	昼食		昼食
13:00	4 体験する時間①	13:00	8 体験する時間③	13:30	14 シュラフ等の片付け
	・坪岳スノーシューハイク		・雪の住まいと広場を作ろう	14:00	15 学ぶ時間⑤
16:30	5 活動のまとめ①	17:00	移動		・指導者に求められること
	（スノーシューハイク）	17:20	入浴	14:45	16 活動のまとめ③
17:45	夕食	18:10	夕食（食堂）	15:45	解散
18:45	6 学ぶ時間③	20:00	9 体験する時間④		
	・雪中泊について		・キャンドルナイト		
	・雪の住まいの計画を立て	21:00	10 体験する時間⑤		
	よう		・雪洞で寝よう		
21:00	入浴	22:00	就寝		
22:30	就寝				

- 7 持ち物 リュックサック（スノーシューハイク用）
下着、着替え（下記の服装を参考に！）
洗面用具*シャンプー・ボディーソープは完備
タンブラーや水筒（飲み物用）
ビニール袋（ぬれたものを入れたり、ぬらしたくないものをくるんだりする用途で使用します）
保険証の写し 常備薬、日焼け止め
参加費 5,180円（おつりのないように持参）

（シュラフマット又はロールマット→自然の家で用意をしますが、自分の物がある人は持参しても構いません。）

8 服装 □スキーウェア □帽子（保温、防水に優れた物が好ましい）

□手袋2セット

*手袋は、①スノーシュー・ハイクの時にはスキー用の物、②雪洞作りの時には業務用ゴム手袋（ホームセンターなどの作業用）の中に軍手など薄手の手袋という方法がお勧めです。

□フリースやジャージ（スキーウェアの中に着る暖かい物を何枚か）

□靴下（膝下位までの長さの暖かい物やウールの物）

□タイツ（保温性の高い物）

□長靴（底の厚い物、中敷きが暖かい物→中敷きだけ購入も可能）

□ゴーグル又はサングラス

*雪中泊時の服装のポイントは下記【寝るときの服装について】に記してあります。

スキーウェア、手袋、帽子、ゴーグルはレンタル可能です。

ウェア：1,231円 手袋・帽子・ゴーグル：356円 長靴：無料

*希望の方は、2月4日(土)までに別紙「スキーウェア等レンタル申込書」にてお申し込みください。

9 参加費 5,180円

□食事代 4,710円(朝食2日分、昼食3日分、夕食2日分、ペットボトル3本、軽食など)

□シート代 290円(本館宿泊シート、シュラフシート)

□保険代 180円

*おつりのないようにご準備ください。当日、受付にて徴収させていただきます。

10 雪中泊の配慮事項

雪中泊とは……

雪国にいても、めったに経験できないことです。雪洞といって雪のほらあなを作ります。雪の中は0度より下がることはありません。しっかりと風が入らないように穴を作り、体が冷えないようマットを敷いた上に寝袋に入ってねむります。寝袋もダウンの氷点下での対応の物の上にシュラフカバーをしてぬれないようにしますので、ご安心ください。また、下着が重要な役割をします。暖かい下着をご用意ください。

本部として「暖かい部屋」も避難用に用意してあります。

寝袋などの必要なものは全て施設で用意します。

【寝るときの服装について】

一番肌に近い肌着が重要です。暖かい長袖の肌着、保温性のあるタイツをお勧めします。肌に一番近いものは、できるだけ肌にぴたっとしているものをみにつけましょう。その上にTシャツ、フリースあるいはセーターをきて、保温性のあるズボンをはけば完璧。靴下は、ウール製の物が二枚履きするなどがお勧めです。



一生に一度の体験かもしれません、

この機会に挑戦してみませんか？

<個人情報の取り扱いについて>

ご記入いただいた個人情報は、「独立行政法人国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規程」等に基づき適切に管理し、この事業に関する事務及び当自然の家主催の事業案内の送付のみに使用し、法令等に定める場合を除いて第三者に開示することはありません。本事業中に撮影した画像・動画・制作物・感想文等を当自然の家・国立青少年教育振興機構・関係教育機関等の事業報告書・広報物・インターネット媒体（ホームページ・facebook等）へ使用する事がありますので、ご了承ください。

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2 【本件担当】 及川、米村、竹内、飯吉

TEL0255-82-4321 FAX0255-82-4325 mail myoko-sen@niye.go.jp